

★ ネギアザミウマ殺虫剤感受性試験 情報

近年、京都府内では九条ネギの栽培面積が増加傾向にありますが、古くから九条ネギを栽培している産地(京都市内等、写真1)からは、「最近、ネギアザミウマに対して殺虫剤の効きが悪くなった。どの殺虫剤を散布しても効かない。どの殺虫剤を散布すればよいのか」という声が聞かれます。そこで、京都市の3ほ場と、比較的栽培歴の新しい亀岡市の1ほ場から得られたネギアザミウマ個体群(それぞれを京都市①～③個体群、亀岡市個体群と表記)について、井村の方法(植物防疫、第66巻、第5号、2012年参照)により殺虫剤感受性の簡易検定を行いました。

(検定結果)

クロチアニジン水溶剤、ジノテフラン水溶剤は、京都市①及び亀岡市個体群に対して、高い殺虫効果を示しました(図1)。シベルメトリン乳剤は、亀岡市個体群に対して中程度の殺虫効果を示しました(図1)。

また、クロチアニジン水溶剤は、京都市①～③個体群に対して、高い殺虫効果を示しましたが(図2)、ジノテフラン水溶剤は、京都市①個体群に比較して、京都市②及び③個体群に対する殺虫効果が低下しました(図2)。

(防除対策上の留意点)

- ・ 感受性の低下を招かないように同一系統の殺虫剤の連用を避け、他系統の殺虫剤を数種類組み合わせさせて散布しましょう(ローテーション散布)。
- ・ ネギアザミウマは雑草地でも繁殖するため、ほ場周辺の雑草管理を徹底しましょう。

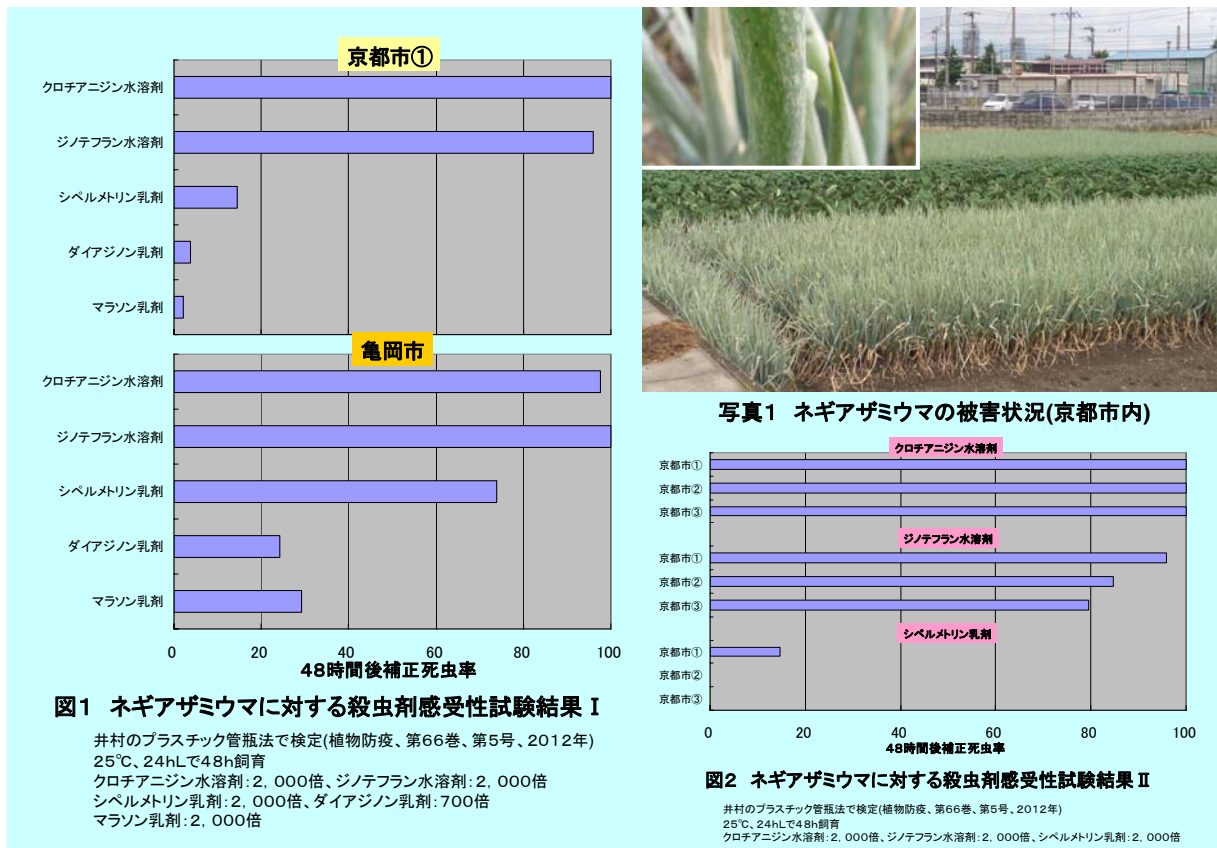


写真1 ネギアザミウマの被害状況(京都市内)